



ききょう便り

平成25年 夏号(第34号)



ききょうの里 夏祭り

暗中模索

評議員 樋口 あさ子

私が評議員という立場でききょうの里と関わるようになって十余年経ちます。

会議や催し物などでここを訪れる度に、肌で感じるこの温かい雰囲気は何なのだろうと何時も考えます。年々増設されて充実してゆく施設の機構もさることながら、ここで働く人達の高齢者と向き合う時の姿勢、心構え、優しさがこうした雰囲気をかもし出しているのだと思います。デイサービスに来られる方々、入所の人達、みな本当に楽しそうに安心しきってここでの日々を過ごしています。

毎年の夏の恒例行事として、ききょうの里を出発点として繰り広げられる横塚町の夏祭りも今年も盛大に無事終わりました。それなりに楽しそうに全身で祭りに参加していた皆さんの顔が浮かびます。

私ごとになりますが、今年初め 78歳で天国へ旅立った夫を看取りました。

その経験を通じてつくづく思ったことは、人間は最後の最後まで人間としての尊厳を失ってはならないということです。まわりの者は老いた人、病む人も一つの人格を持った人間として敬う心を忘れず、その人の歩んで来た人生の軌跡に敬意を持って接しなければならないと思いました。

今の日本は、これから年を追うごとに加速度をつけて高齢化が進んで行くと思われまます。老病死は誰にとっても逃れることの出来ない現実であり、私達はこの現実から目をそむけることは出来ないのです。誰もが行く道なのですから。

ききょうの里のような施設が世間からもっと重要視され、こうした施設で働く人達がもっと厚遇されるようになるには、私達は何をしたらよいのか、何が出来るのか、いろいろ考えては模索しているこの頃です。



社会福祉法人 桔梗会

特別養護老人ホームききょうの里
ききょうの里短期入所生活介護事業所
ききょうデイサービスセンター
ききょうの里居宅介護支援事業所
沼田市在宅介護支援センターききょう

ききょうデイサービスセンター岡谷
ききょうヘルパーステーション

URL : <http://www.kikyou.or.jp>

〒 378-0002

群馬県沼田市横塚町 957 番地 2

TEL 0278 - 23 - 8831

FAX 0278 - 23 - 8832

〒 378-0061

群馬県沼田市岡谷町 687 番地

TEL 0278 - 23 - 8861

FAX 0278 - 23 - 8852

発行責任者 諏訪 光生

ききょうの里ユニット型の 新たな取り組み

買い物に出掛ける

今年度から定期的に利用者様と一緒に買い物に外出するようになりました。



きっかけは、利用者様の買い物の相談をしている職員同士の会話からでした。「どんな物が好きなのかな?」「〇〇さんなら自分で選べるよね?」と話が進み、「外に出られる→選べる→買い物ができる!」ということになって実現。今では週に一度利用者様と買い物へ出掛け、商品を見て選んでもらい買い物をしています。

以前なら当たり前にしてきた「外に出る」「物を選ぶ」「お金を遣う」という事を再度体験していただいて、四季を感じたり、「自分にもできる」「楽しい」と思える時間が増えてきたと思います。

施設で生活しているから特別な事をするのではなく、「今までやっていたこと」を「今でもできるんだ」「これからも続けたい」と体験したり感じながら生活していただけるように、今後も利用者様それぞれの暮らしに寄り添った支援を続けていきたいと思っています。

昔ながらの空間

今までは広いリビングで利用者様全員で過ごす時間がほとんどでしたが、リビングの空きスペースを活用して、畳や炬燵を置いて昔ながらの雰囲気を楽しみながら過ごせる空間を作りました。お茶飲みや食事、ちょっと休憩したい時、その時々で活用していただいています。

お茶の時間に利用者様がお自分でお茶をいれ、皆さんと昔話をしたり歌を唄ったり、時には昼寝をしたりと、時間を問わず自由に過ごされています。

空間作りはまだまだ途中段階ですが、利用者様が落ち着いて過ごせるよう工夫していきたいです。



食事を楽しむ

ユニットでは季節にあった特別食を準備したり、外食して好きな物を食べていただいたり、職員と利用者様が協力して食事やおやつを作ったりしています。



最近は、流しそうめん、コロッケ、水ようかん、柏餅など、色々な物にチャレンジしています。食べるだけでなく、作ったり見たりと一緒に楽しい時間を共有する事で、いつもより生き活きとされ、会話も弾み、食欲が増す事もあります。

今後も見た目や味、盛りつけも工夫して、利用者様に美味しく楽しく食事をしていただけるように取り組んでいきたいと思っています。

ご家族様より

—皆様に感謝—

ユニット型入所者ご家族様

私がききょうの里に伺うときは、なぜかお天気があまり良くないのが不思議です。

しかし、この施設に一步入るなり、スタッフの皆さんの笑顔に出会うことができ、外が雨や曇りでも心の中は晴れに変わります。

パーキンソン病を患い、その後だんだんと体力もなくなり、会話もできなくなった母がききょうの里にお世話になり早7年が経ちました。新築と同時に入れていただき、これまでずっとお世話になっていられることは、本人にとっては勿論のこと、家族としても、もう幸運中の幸運だと思っています。

先日は、母の誕生日でした。この時も「たまには外に出て緑の中もいいね」ということで、川場の田園プラザで祝って下さったとのことで、本当にありがとうございました。

また、卒寿を越えた母であっても、服装はなるべく明るい色のものをと配慮していただいていることにも、感動しております。今日もピンクの靴下、薄紫のパジャマを身に着け、花柄のタオルケットに包まれていて、母はとても若返っていました。

「お前、もう少し明るい色の洋服を着なさいよ」と、元気なときは娘の私たちに口癖のように言っていた母でしたので、この心遣いはきっと喜んでいと思っています。

さらに、一度入院を余儀なくされた母が、再びききょうの里にお世話になりたいと無理なお願いを通してもらったときも、玄関で職員の皆様が「おかえりなさい」と迎えてくださいました。それ以来、この暖かい皆様の言動にうたれ、私も「おかえりなさい」の言葉を何よりも大事にしようと思うようになりました。

入所者とのコミュニケーションの糸をいつも太く繋いでくださっている皆様の心意気でききょうの里は今日も晴れ。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



フォトアルバム(行事紹介)

夏祭り



輪投げに挑戦！
「エイッ」と気合を入れて投げるポーズも決まっています。何点とれるかなあ〜♪

ジャンボボールやきらきらプレスレット、花火など夏のアイテムが揃って毎年大盛況のくじ引きです。

お目当ての商品が当たりますように…



ふわふわのかき氷は自分でお好みのシロップをかけます。いちごシロップをたっぷりかけて出来上がり☆

笑顔でくじ引きのスタンプ押しをしてくださった利用者様。たくさん子ども達とふれあうことができました。



季節の行事



デイ岡谷の庭で育てたジャガイモが収穫できました。



七夕飾りの前でこやかに記念撮影。



調理師として働いてきた道のりも十年以上経ち、思い返してみれば、それ程この仕事に対して、深く考えてきたというわけでもありませんでしたが、時間の経過と共に、自然と技術や知識は付いてくるもので、気が付けばもはや若手ではなく、中堅所と云った感じになって参りました。

ひよんな偶然から、老人ホーム間のネットワークの一つ、栄養・調理研究部会の役員をやる事になり、何故私かという思いも正直ありましたが、今思えばやって良かったのかなと思っております。

部会では各施設からの役員さんが集まり、会議を行い、講習会や調理実習などの研修会を企画し、運営することにより、老人ホーム間の情報の共有や、人的な交流を深めることを目的としていました。

私は集団調理、取り分け老人ホームの調理に従事して参りましたが、こういった部会のようなネットワークがあることは知りませんでした。部会に足を踏み入ると、そこには一緒に高齢者食を研究し、発展させていこうという意志があり、関連している人の多さにも驚きました。マイナーだと思ってきた高齢者食が、実は大きな産業だったのです。

自分のやってきた仕事が多様な仕事なのか、より理解出来たと思います。この仕事に対する視野は広がり、舵を取るべき道すじが見えたのではないかと思います。

(調理職員 飯樋)



いつまでも“頼られる存在”

でたいですよね…

私の父は、数年前より、お医者様から『腰椎すべり症』と診断されました。足の神経が圧迫されるため、しびれが継続したり、急に力が抜けてしまったり…、近頃では、車の運転も心配になり、しばらく乗らないで様子を見ています。私も『危ないから乗らない方がよいよ。』と忠告した手前、文句は言えませんが、父が車に乗れないことで両親からいろいろな用事を頼まれるようになりました。つまり、80歳代の両親にとって、父の車は大事な交通手段であり、まさに、頼られる存在だったのです。

先日伺ったご家族との話の中で、とても良い話がありました。『うちの父、肩もみがとても上手なんです。だから、私が疲れたときには、デイサービスを利用している主人に肩を揉んでくれるようお願いしているの。』とのこと。とても仲の良いご夫婦で、普段のお世話はほとんど奥様がしているにもかかわらず、認知症のご主人を“頼られる存在”にしてあげている様子が伝わってきました。

ききょうデイサービスセンター岡谷では、皆様に色々なお手伝いをお願いしています。例えば、洗濯物畳み、お茶入れ、食事の配膳や下膳、野菜の収穫、ぬか漬けのお世話、写真撮影、おやつ作りなど様々です。皆様、本当に“頼りにしています”。これからもよろしく願いいたします。

(デイサービスセンター岡谷相談員 高橋)



職員紹介

この職に就いて

介護の仕事に就いて8年目になりました。

私が、ききょうの里に就職した年にユニット型施設が増築され、そこに配属されて7年間働きました。今年の4月から従来型へ異動となり、新たな気持ちで頑張っています。

ユニット型は少人数なので利用者様と関わる時間が多く取れ、利用者様の望んでいることなどを理解して援助にあたってこられたように思っています。従来型は人数も多く、日々時間に追われてしまっているのが実情で残念でもあります。しかし、忙しい中でも利用者様との関わりは自分自身の成長になると思っているので大切にしています。介護を行っていく上で、一人ひとりの利用者様に合ったケアをするにはどうしたらいいか 職員同士で意見を共有し仕事を行っています。また、もし自分だったらということを常に思い介護サービスを提供させていただいています。

最後にききょうの里の理念でもある「利用者の幸せ」とは人それぞれ捉え方は違いますが、自分なりに心にとめて、自分もききょうの里に入所したいと思えるような施設にしていけたらと思っています。



介護職員
藤井 元



まだら模様

雨上がりの十三夜。雲間の明かりに、派手なヒョウ柄の着物を着た女性が歩いていました。と私には見えませんでした。ところが、それは小千谷縮の薄手の生地にも襦袢が透けていたらしく、豹柄と見てしまったようです。それにしても派手な襦袢だこと。いえいえ、そんな不作法な、あり得ません。多分、それは、私の、妄想。

時として、同じ出来事に出くわして、一緒にいた人たちとは違う体験として記憶の隙間に入り込んでしまうことは珍しくありません。自分が惚れて結婚したのに、イヤだったけどしょうがなく…なんて人、多いですね。

認知症の症状の一つに二つのまだら模様があります。一つは「月に叢雲」タイプ。晴れているときは普通に話が通じてても、雲がかかっているときはちっとも話が通じないという感じ。時間の変化で認知能力も上下し、分かっているのだから、分かっているのに分からないフリをしているのだから、本当に分からないのだから、分からない。介護者は振り回されます。「花に風」と散らないように双方向からのコミュニケーションが大事だと思います。お互いのわかり方をお互いで分かり合うということでしょうか。

もう一つは、生地となる地紋にぼかしの模様が入ったまだら模様。認知能力の種類にまだらが生じていて、例えば、人の顔だけ区別がつかなくて(顔貌認識の低下)、結構しっかりしているのに子どもの顔が分からないなどということもあります。でも、声の調子や文脈で誰だか判別できたりします。

あっ、最初にヒョウ柄と言いましたが、その方、本当は浴衣を着てたそうです。悪友が酔眼にもかかわらず、はっきりと見ていたと主張するのですから確かなんだそうです?!

(介護支援専門員 大平)



☆☆今後の予定☆☆

☆ききょうデイサービスセンター

- 8月 夏祭り (6~8日)
- 9月 敬老誕生会 (中旬)
- 10月 りんご狩り (上旬)
屋内大運動会 (中旬)

☆ききょうの里 (従来型・ユニット型)

- 8月 バーベキュー (8日・ユニット型)
ききょうの里花火大会 (27日)
- 9月 ぶどう狩り (中旬)
敬老食事会 (15日)
- 10月 りんご狩り (上旬)

☆ききょうデイサービスセンター岡谷

- 8月 夏祭り (中旬)
- 9月 十五夜 (中旬)
稲刈り・ぶどう狩り (下旬)
- 10月 ふれあい広場《小規模デイ》合同文化祭 (中旬)



◇◇編集後記◇◇

今年も、ききょうの里恒例の夏祭りが行われました。日頃お世話になっている地域の皆様にも、少しでもご恩返しができればと、毎年趣向を凝らして行っています。今年はデイサービス営業日と重なり、いつも以上に多くの利用者様にも一緒に楽しんでいただきました。

このお祭りが終わると間もなく秋、暦の上での立秋はすぐそこです。「暑いねえ〜」の挨拶もあと少しです。あと少し、この暑い夏しかできないことを見つけて、楽しんでいきたいと思っています。(総務 中山)